2026 年度大学院（2 月）　「外国語」　解答例

I.

II.

III.

　エルネスト・ルナンは『ケルト民族の詩』において、彼がケルト人の特徴と考えたものを描写している。私は、以下のよく知られる文章をくりかえさねばなるまい。「ケルト民族は現実的な自然主義者であった」「自然自体への愛、メランコリーと深く結びついた、自然の魔術への鮮烈な感情」「ケルト人の歴史は一つの長い哀嘆であり、いまだその流謫、海を越える移動を回想する。時にそれが陽気に見えたとしても、涙はまもなくその微笑みの裏に光るのだ。喜びの歌は最後には哀傷歌になる。その国民的メロディの甘美な悲しみに匹敵するものは何もない。」マシュー・アーノルドは『ケルト文学研究』において、この自然への情熱、想像力、メランコリーをケルト人の特徴と認めたが、それらをより精緻に描写した。自然に対するケルト人の情熱は、自然の「美」からというより、むしろほとんどその「神秘」の感覚から来

る。そしてケルト人の想像力とメランコリーはいずれも「事実の専制に対する情熱的で波乱に満ちた反応」だ。ケルト人は、ファウストやウェルテルがそうであるように「完全に明確な動機」から憂鬱なのではなく、自らの中にある「説明できない、抵抗力のある、途方もない」何かゆえに憂鬱なのである。

2026 年度大学院（2 月）　「専門科目」　解答例

I. 【A 群】（18 世紀まで）

L'Astrée

17 世紀初頭にオノレ・デュルフェが著した長編牧人小説である。5 世紀のフォレ地方を舞台に、田園に隠棲し羊飼いとして暮らす高貴な男女が、理想的で洗練された恋愛を繰り広げる。複雑に絡み合うエピソードと精緻な恋愛心理の描写によって、17 世紀を通じて広く愛読された。繊細な感情と洗練された表現を重んじる社交界の風潮「プレシオジテ」の先駆をなした作品であり、その後の心理分析小説や古典主義文学に多大な影響を与えた。

Comédie-ballet

17 世紀フランスでモリエールと音楽家リュリらによって創始された舞踊喜劇である。古典主義劇作術に則った本格喜劇と並行する、自由で多様な喜劇の展開として生み出された。歌と踊りと芝居が混然一体となって華麗な祝祭的空間を現出する点に特徴があり、『町人貴族』や『病は気から』などが代表作に挙げられる。喜劇と幕間のバレエを結びつけて宮廷娯楽を総合芸術へと昇華させ、のちのフランス・オペラの発展を準備した。

Jacques le fataliste et son maître

18 世紀の思想家ディドロによる哲学的小説である。この世の出来事はすべて天上に記されていると主張する運命論者の下僕ジャックと主人の旅の対話を軸に進行するが、多数の挿話、話者の物語への介入により小説らしさが攪乱されてゆく。伝統的な物語構造の解体によって人間の自由と運命、相互理解の可能性といった主題を追求するこうした実験的手法は、20 世紀のヌーヴォー・ロマンの先取りとも評価される。

Lancelot ou le chevalier à la charrette

12 世紀後半、クレチアン・ド・トロワによって書かれた八音節の韻文物語であり、ケルト伝説を基にした「ブルターニュ物語」の一つである。騎士ランスロが、アーサー王の王妃グニエーヴルを救出するため、罪人を乗せる不名誉な荷車に乗る試練を乗り越え、絶対的な愛と献身を貫く姿を描く。中世フランス文学において「宮廷風恋愛」の理念を本格的なロマンの形式で体現し、その指南書の役を果たすことになった。

Le Misanthrope

17 世紀古典主義を代表する劇作家モリエールが 1666 年に発表した喜劇である。偽善を憎み、常に真実と率直さを求める主人公アルセストが、社交界の浮薄に染まった思い人の未亡人セリメーヌや周囲と衝突し、孤立していく姿を描く。単なる笑いを越えて人物の心理や悲哀を浮き彫りにし、さらに中庸の徳を体現する友人との対比で当時の「節度」の理念を問い直し

た本作は、純粋な性格喜劇として古典劇の最高傑作に数えられる。

Les Regrets

16 世紀ルネサンス期のプレイヤッド派を代表する詩人ジョアシャン・デュ・ベレーが 1558 年に発表した詩集である。ローマ滞在中に直面した教皇庁の腐敗や陰謀といった現実の頽廃への激しい幻滅と、故郷フランスへの深い望郷の念を詠っている。プレイヤッド派が抒情詩の領域に確立した十二音綴のソネを完成へと導き、真率な個人的感情を吐露した本作は、近代抒情詩の道を開きフランス詩を深く刷新した傑作と評される。

【B 群】（19 世紀以降）

« Correspondances » de Baudelaire

詩集『悪の華』に収められたシャルル・ボードレールによる十四行詩。スウェーデンボリの影響のもと、大宇宙と小宇宙、精神界と物質界の間には呼応関係が存在し、色、香り、音などの諸感覚が共感覚的に響き合いながら見えない精神世界を暗示していることを表現する。事物を象徴として表現し、詩的言語の暗示的機能を示唆した本作は、マラルメらによってフランス象徴主義の詩学が確立されるさいの出発点となった。（注："Correspondances"という概念について解答した場合も適切な配点を行う）

L'Ère du soupçon

1956 年にナタリー・サロートが発表した文学評論集である。小説家と読者の伝統的な関係を問い直し、「性格」や「筋立て」といったバルザック的な小説の概念や、言語が現実を表現しうる可能性に対して現代人が抱く根深い「不信」を鋭く分析した。アンガジュマンによる文学の手段化や伝統的リアリズムを告発し、人間意識の限界で生じる定義しがたい動き（トロピスム）を捉えようとする本作は、ヌーヴォー・ロマンの理論的支柱となった。

Les Faux-Monnayeurs

1925 年にアンドレ・ジッドが唯一「ロマン（小説）」と銘打って発表した代表作。同名の小説を執筆しようとする小説家エドゥアールを中心に、現実と虚構、真実と偽造が複雑に交錯する多層的な構造を持つ。伝統的な小説の枠組みを打破する「純粋小説」を試みると同時に、作者や視点の問題を小説内部に取り込んだ「小説を問う小説」として、20 世紀の革新的な小説手法の先駆になった。

Georges Bataille

1897 年生まれのフランスの思想家、小説家。代表作に小説『マダム・エドワルダ』や思想書『内的経験』などがある。人間の生における過剰な蕩尽、エロティシズム、悪、死などにおいて出会われる極限的な内的経験を徹底的に探求した。シュルレアリスムとの対立を経て、理

性やブルジョワ的道徳体系の根底を揺るがす「侵犯」と「聖性」の思想を構築し、戦後の現代思想や文学理論に多大な影響を与えた。

Le Groupe de Médan
19 世紀後半、エミール・ゾラを中心として形成された自然主義文学の若手作家たちの集団である。1877 年『居酒屋』の成功後、パリ近郊メダンのゾラの別荘に集ったモーパッサンやユイスマンスらが、1880 年にゾラ発案のもと、普仏戦争を題材とする短編集『メダンの夕べ』を共同出版した。同書は現実を客観的・科学的に描写し、社会の暗部や戦争の悲惨さを告発する自然主義文学の潮流を決定づけた。

Lorenzaccio
1834 年にアルフレッド・ド・ミュッセが発表した戯曲。16 世紀フィレンツェを舞台に、暴君を暗殺するため自らも放蕩に身を浸して悪を装う青年ロレンツォの孤独と苦悩、そして行動の虚しさを描く。シェイクスピアの影響を受けつつ古典悲劇の規則を打破し、ロマン派の憂鬱と挫折、そして理想と現実の乖離から生じる絶望や倦怠といった「世紀病」を劇空間に投影した本作は、フランス・ロマン派演劇の傑作と評価されている。

II.

Sujet: Le théâtre agit-il plus puissamment sur son public que le roman?

Introduction : on rappellera que les deux formes obéissent à un cadre spatio-temporel très différent qui créent des conditions matérielles extérieurement différentes. On « lit » un roman, on « écoute », on « regarde » une pièce de théâtre. On soulignera aussi la différence de public (spectateur et lecteur) On rappellera encore que le terme « agir » est polysémique et doit être sémantiquement délimité afin de mieux répondre à la question posée. S'agit-il d'une action qui doit déboucher vers le politique ou qui travaille sur les seules émotions (*Catharsis* par exemple) ?

I) Action et « essence » du théâtre. Une performance éphémère à plusieurs mains pour spectateurs.

A)- Une enveloppe sensible et matérielle : costumes, décors, lieu théâtral... lieu du metteur en scène

ex : Théâtre-monument, religieux (Grèce, Mystères), comédie bourgeoise et décors (Scribe, Feydeau), ou décoration sommaire (cf. Georges Pitoëff)

B)- Un texte porté par une performance, la voix et le corps du comédien
ex: Pierre de Sainte-Albine, *Le Comédien* (1747), la déclamation particulière (Sarah Bernhardt, Mary Marquet). On va au théâtre jusqu'au XIXe siècle pour « écouter »

C)- Un texte qui s'accomplit dans et par « une assemblée », celle des spectateurs (cf. Christian Biet, *Qu'est-ce que le théâtre*). Action et effet de groupe.

II) Action et « essence » du roman : l'expérience d'un face-à-face avec le lecteur répétable.

A) D'un texte commun à une lecteur silencieuse et solitaire
Lecture orale (salons du XVII-XVIIIe siècle), dont micro-assemblée et prédominance depuis le XIXe siècle de la lecture silencieuse au point d'être un genre pour les « Happy Few » (Stendhal)

B) Lecture qui n'est pas prisonnière d'une continuité chronologique : retour en arrière, arrêt de la lecture, reprise : le lecteur semble disposer de la durée de la lecture, d'où une action différente sur le lecteur.

C) L'histoire d'un personnage de théâtre tient en quelques heures, alors que le roman peut englober l'histoire d'une vie
-subtilité des analyses (*Astrée*, Honoré d'Urfé).
- cycle romanesque (*Les Thibault, La Recherche*)

Conclusion : Une action de deux genres littéraires très différente, et donc difficile à quantifier. Il ne peut avoir, pour des genres si différents, une réponse unique au sujet posé. Il existe très peu d'artistes ayant excellé dans les deux genres (sauf Victor Hugo) mais il existe aussi des points de convergence : - un socle commun au théâtre et au roman, et qui conditionne leurs actions est le dialogue (on parle par exemple de scènes balzaciennes). De son côté le théâtre peut aussi être « un spectacle dans un fauteuil » (Musset), une lecture silencieuse, qui s'apparente alors à la lecture d'un roman.